

ユネスコ

2025.10
vol. 1184



CONTENTS

- 1 特集：終戦から80年
戦争の記憶を風化させないために
 - 広島ユネスコ協会副会長 畑口 實さんインタビュー
 - 各地のユネスコ協会・クラブや団体の平和活動
- 5 活動報告
 - 災害子ども教育支援
 - U-Smileプログラム
 - 三菱アジア子ども絵日記フェスタ2024-2025
 - 世界遺産活動
- 9 新役員および評議員
- 10 定時総会・理事会・評議員会報告
新規加入会員のご紹介
- 11 ユネスコ活動の広場
お知らせ

杉並ユネスコ協会青年部(東京都)では、広島ユネスコ協会の協力を得て、毎年広島スタディツアーを行っている。今年も3月に第24回となるツアーを実施し、高校生や大学生が参加。平和記念資料館への訪問や被爆体験講話の聴講を経て、参加者で意見交換を行っている

終戦から80年。核も紛争もなくなる世界で、 “平和のために何ができるか”改めて考える

1945年8月15日の終戦から今年で80年が経ちます。この間に世界は大きく変わり、また人びとの平和に対する意識も変化しました。昨年、日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)がノーベル平和賞を受賞したことは、世界中の注目を集めました。「教育を通じた平和の普及」を目指し、同じく草の根からの活動を続けてきた私たちにとっても喜ばしいニュースでした。一方で、世界では、ロシアによるウクライナ侵攻やガザの紛争など軍事衝突が続く、平和が脅かされている現実があります。

いつの日か、被爆者を含め、戦争を実体験として話せる人がいなくなる時代が来ます。それでも、戦争の記憶を決して風化させないように活動している人たちが全国にいます。「人類が二度と戦争を繰り返してはならない」というUNESCO憲章の理念のもと活動する私たちも、同じ思いで平和活動に取り組んでいます。

この戦後80年という節目に、私たちは今一度、“平和のために何ができるか”考えたいと思います。今号は、被爆体験者の方へのインタビューや、各地のユネスコ協会・クラブの平和活動を紹介する特集を組みました。この機関誌が、考えるためのきっかけのひとつになれば幸いです。

広島ユネスコ協会副会長 畑口寛さんインタビュー

「葛藤を乗り越え、核のない平和な世界へ」

広島と長崎に原爆が投下されてから80年が経ちました。広島ユネスコ協会副会長の畑口寛さんは、80年前、母親のお腹の中にいるとき被爆した「胎内被爆者」です。原爆の悲惨さを語る人が減り続ける中、胎内被爆者は「最後の被爆者」ともいわれます。広島平和記念資料館の館長を務めた後、いまでも幅広い活動を続ける畑口さんに平和への思いを伺いました。

（企画広報部／ライター 永山多恵子）

「原爆」「平和」という言葉に ずっと抵抗を感じて生きてきた

畑口さんの家は、広島から20キロ離れた現廿日市市にありました。原爆投下時、31歳だった父二郎さんは、爆心地から1.8キロの広島鉄道局で勤務中に被爆。当時27歳だった母チエノさんは、帰らぬ夫を待ち続け、4日後に広島市内へ。焼け跡から二郎さんの懐中時計とベルトのバックルを探し出し、近くにあった骨とともに持ち帰りました。妊娠初期だったチエノさんはそのとき入市被爆し、翌年、畑口さんが生まれました。

「父は私の存在を知らずに亡くなり、私は生まれたときから父親がいませんでした。家には当時、2歳と5歳の姉がおり、そのほかに父の妹と弟がいて、母は大変な苦勞をしたのです。物心ついてからずっと極貧の生活で、風呂のお湯を沸かす木もなく、蒸気機関車から落ちた炭を線路に拾いに行ったりしていました」

畑口さん自身は原爆を体験していません。それなのに被爆者となり、理不尽にも父を奪われ、貧しい生活が続き、「なにが平和だ」という思いがあったといいます。

「自分が被爆者だとは、とても受け入れられません。だから『原爆』『平和』という言葉を書くのも、ずっと嫌でした」

背中を押してくれた父の遺品

中学生となり、世の中が少しずつ豊かになっていった頃、畑口さんの心にアメリカへの鬱屈した思いが芽生え始めました。

「相変わらず自分たちだけが貧しい中で、父を殺したのは原爆だ、それを落としたのはアメリカだ、と消そうにも消えない憎しみが湧いてきたのです」

その気持ちは大人になっても消えないままでした。やがて大学を卒業し、広島市の職員となります。しかし、苦しい過去にふたをするように、被爆者であることは誰にもいっていませんでした。そして戦後50年が経ったとき、父の50回忌の法要を機に、遺品の懐中時計とバックルを骨壺に入れ、



「戦後80年ということは、私も来年は80歳。平和の活動を続けるためにも、元気でいなければならないと思います」

墓に納めました。

「これで父とも原爆ともお別れだ、というさっぱりした思いでした」

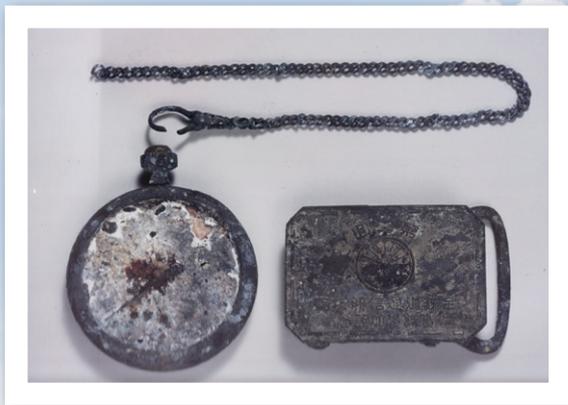
ところがその翌年、51歳のときに、畑口さんは広島市の人事異動で広島平和記念資料館館長に任命されます。初めての戦後生まれの館長でしたが、マスコミはこぞって出自を調べ上げ、胎内被爆者ということが一気に知れ渡りました。避けてきた被爆の事実、再び向き合わざるを得なくなったのです。

「最初のうちは気が重くて、早くこの仕事を辞めたいと思いつつながら館長を務めていました」

そんな中、職場の先輩に助言を受け、いったんは墓に納めて決別した父の遺品を取り出しました。そして、各地の原爆展や資料館で紹介することにしました。亡き父と原爆をつなぐ遺品が、資料館館長となった畑口さんの背中を押すこととなりました。

広島平和記念資料館で 平和への活動を広げていった

畑口さんは、館長として次々に新しいことを始めました。就任2年目には、来館者に館内などで解説をするヒロシマピースボランティアの発足に関わりしました。



広島平和記念資料館に展示されている畑口さんの父二郎さんの遺品。懐中時計(左)の短針が8時を指したまま文字盤に焼き付き、長針はない。右はベルトのバックル ※畑口さん提供



広島ユネスコ協会で畑口さんは「平和・世界遺産部会」に所属。毎年8月15日には広島平和記念公園で子どもたちと平和の鐘をついている ※畑口さん提供

「来館者は、聞きたいことがあっても聞ける人がいなかったのです。それで、市民と資料館がもっと密接になればいいと、市民を対象にボランティアを募集しました。当初50人の募集に180人ほどの応募があり、関心の高さが伺えました」

いまは学生から高齢者まで、被爆者の方も含めて200人以上が登録しているそうです。畑口さんも退職後は、月2回ほどピースボランティアとして活動しています。

資料館のロビーにある地球平和監視時計は、畑口さんが館長時代の2001年に、NPO法人 広島からの「地球平和監視」を考える会によって設置されました。1段目は広島への原爆投下からの日数、2段目には、最後の核実験からの日数が表示されています。新たな核実験が強行されると、この日数をゼロにリセットし、広島からの抗議とするものです。設置当時からすると実験回数は減ったものの、まだ毎年のように世界のどこかで核実験が行われているそうです。

さて、資料館では常設展示の音声ガイドが用意され、現在は約70分のガイドを15言語で聴くことができます。このうち約20項目の被爆資料については、日本語の解説を俳優の吉永小百合さんが朗読しています。これも、畑口さんが熱心に依頼して実現したものです。

「吉永さんは当時、原爆詩の朗読活動を続けていらっしゃいました。それに感動したので、自分の体験を手紙に書いて、ぜひ被爆者の心を伝えてほしいとお願いしました」

いまは資料館に常設されている畑口さんの父の遺品についても、吉永さんの解説を聞くことができます。

「核抑止論」ではなく 我々は「核廃絶」を求めている

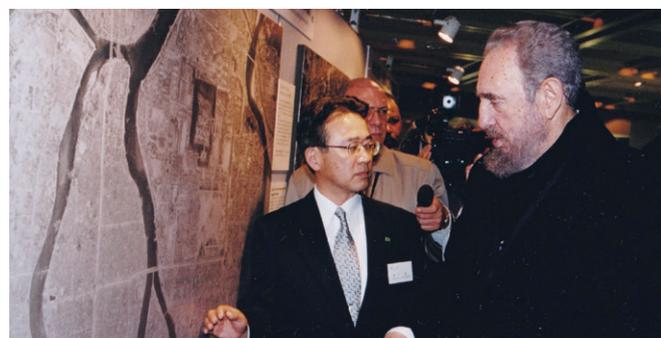
原爆資料館館長として国内外でアメリカ人と接したとき、畑口さんは「アメリカへの憎しみはいまも消えない」と正直に話してきました。そのたびに相手からは、ときに涙を流しながら謝罪の言葉が返ってきました。

「それで気持ちが収まるかというと、そんなことは決まてないんです。身近なことで考えれば、憎しみというのはなかなか消えないけれど、相手の立場に立って考えれば、

気持ちが穏やかになっていきます。意見対立、紛争を抑えようとするには、それしかないんですね。結局、それが平和への道だと思います」

館長を退職するときの記者会見で、新聞記者から「あなたのお父さんは、原爆の悲劇を家族に伝えたいとこの遺品を遺し、お母さんはそれを必死に探し出した。あなたは、それを後世の人たちに伝えるために生まれてきたのではないか」といわれたそうです。

「その言葉を聞いたとき、館長として務めた9年間の思いがスッと胸に落ちました。世界はいまだに『核抑止論』に支配されていますが、我々が求めているのは『核廃絶』です。最後の被爆者として、先人の方々がやってこられたことを後押ししながら、これからも一緒に頑張っていかなければいけないと思っています」



資料館には国内外の要人が訪れる。最も印象に残っているのが革命家でキューバ国家評議会議長を務めたフィデル・カストロ氏。畑口さんが父の遺品を見せると突如表情を変え、「母は大丈夫か?」「被爆者の生活は?」と次々に質問を投げかけ、国や政治信条を超えて相手を思いやる人間味のある一面を見せた

※畑口さん提供



プロフィール

はたぐち・みのる

1946年広島県佐伯郡大野村(現廿日市市)に生まれる。広島商科大学卒業後、広島市役所に就職。1997年広島平和記念資料館館長となり、2007年広島市役所退職と同時に資料館館長を退任。2009年広島ユネスコ協会に入会、17年から同協会副会長。広島県被爆者団体協議会会員。広島戦災供養会会長。

各地のユネスコ協会・クラブや団体の 平和活動を紹介します

民間ユネスコ運動に携わる各地のユネスコ協会・クラブや関連団体で、さまざまな平和活動が行われています。今回は、地域の特色を生かしながら次世代への継承に力を入れている協会・団体の活動を紹介します。

(企画広報部)

豊橋ユネスコ協会 (愛知県豊橋市)

出前授業で平和について学んだ子どもたちが、 戦争を知らない大人世代に伝える

市内の小・中学校などを対象に、「軍都・豊橋」※の歴史の教訓を学び、平和のあり方を考える出前授業を行っています。10年余にわたって実施し、昨年度末には通算150回を迎えました。

出前授業は毎年10～15校で実施しています。主なプログラムは、①戦争体験談を聞く教室での座学、②豊橋公園内の戦争遺跡見学と「平和・共生の鐘」を鳴らす、③愛知大学周辺の軍施設の遺跡見学。これらを中心に各学校の学習の過程や希望に応じて準備しています。最近では、座学と遺跡見学を組み合わせたプログラムを希望する学校が増え、実感を伴って戦争の歴史を学ぶ機会になっています。戦後80年を経て、児童・生徒の保護者は戦争体験がなく、指導教員も「軍都・豊橋」の歴史の理解度はさまざまという状況です。そこで昨年度は、出前授業の学習内容を題材に教員と児童で演劇を創作し、保護者に向けて発表したり、出前



出前授業では、教室内で防空頭巾の試着を行うことも

授業の感想文や学習内容を冊子にしたりと、新しい動向が見られました。教員と子どもたちがともに学び、また子どもたちが学習したことを、戦争を知らない保護者に伝える「逆学習」ともいえる効果が生まれています。

※豊橋市は、現在の豊橋公園に陸軍18連隊が、愛知大学豊橋校舎と周辺に第15師団が配置され、終戦まで軍都として発展した。

岡山ユネスコ協会 (岡山県岡山市)

戦争遺跡の見学を通じて戦争の悲惨さと平和の大切さを学ぶ

今年は小中高生を対象に、全4回の「平和のとりで」スタディツアーを開催しました。終戦から80年が経過し、人道危機が幾度となく叫ばれる世界情勢で、戦争を知らないユネスコ協会会員が、さらに若い世代に引き継ぐ使命と責任を感じ企画しました。

6月14日(土)の第1回ツアーでは、水島空襲※による県下最大級の戦争遺跡「亀島山地下工場跡」を巡り、戦争の悲惨さや平和の大切さについて小中高生と議論を交わしました。この地下工場には、戦争末期に空襲から飛行機を守るため山に何十本ものトンネルが掘削され、多くの人びとが危険で過酷な労働を強いられた歴史があります。戦争は人の未来を壊すものであると知り、ともに成長できる社会を目指すための自覚と責任を痛感する機会となりました。

※水島空襲…1945年6月22日、現在の倉敷市水島に、アメリカの爆撃機が軍用機の工場を狙って爆弾を投下し、11人が死亡、46人が重軽傷を負った。



戦争遺跡「亀島山地下工場跡」を小中高生とともに見学

参加した児童・生徒の感想

小3のとき、絵本「ぞう列車がやってきた」を読んで、衝撃を受け、涙した記憶から、このスタディツアーに参加しようと思った。身近な水島空襲について全く知らなかったが、戦争遺跡である地下工場跡を見ることで、二度と戦争を起こしてはいけないと心から思えた。
(小学6年生)

特別例会で日本被団協の講演会を開催

今年は終戦から80年、また翌7月9日は岐阜空襲から80年を迎える節目ということもあり、7月8日(火)に特別例会として日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の前事務局長、木戸季市氏の講演会を開催しました。

5歳で被爆された木戸氏は、1991年、岐阜県に被爆者団体を設立し、2017年からは日本被団協の事務局長に。昨年12月、日本被団協がノーベル平和賞を受賞した際は、何度も候補にあがった後だったため、皆さん大変驚いたそうです。ノルウェーの首都オスロで授賞式に出席するためのクラウドファンディングでは2日で目標以上のお金が集まり、宿泊先のホテルのクリスマ

スツリーには折り鶴が飾られたなど、心温まるエピソードも披露されました。

木戸氏からは「今切に願うことは核兵器の廃絶である。今日はユネスコの会の方々とお会いすることができ、また新しい一歩を踏み出すことができました」との言葉がありました。この日、新たに3名が岐阜県ユネスコ協会に入会し、大変有意義な会となりました。



講演会では木戸氏の言葉に多くの聴講者が熱心に耳を傾けた

失われた特攻隊員の命に思いを馳せ、鐘を鳴らす

特攻兵器である人間魚雷「回天」。その訓練基地があった周南市大津島にある「回天記念館」の前庭で、毎年8月15日に「平和の鐘を鳴らそう」のイベントを開催しています。

当日は、市長や教育長をはじめ中・高校生および外国人など、県内外から多くの方が参加しました。平和宣言を唱和し、参加者一人ひとりが平和の尊さに思いを寄せ、争いのない世界平和を願って鐘を鳴らしました。初めて参加した中学生は「回天記念館で、特攻隊員の方々の写真や手紙など見て、強い衝撃を受けまし

た。特攻隊員のご冥福を祈り、平和な世界を願って鐘を鳴らしました」と語りました。痛ましい記憶や記録を後世に伝えていく大切さを確認しました。



今年も大勢が平和を願って鐘を鳴らした

「プロジェクト
未来遺産2014」
登録プロジェクト

被爆樹木が世界に伝える未来へのメッセージ 「平和・希望・共生」

爆心地から2キロ以内にある54カ所159本の樹木は、広島市によって「被爆樹木」として認定されています。広島に投下された原子爆弾により、広島市の中心部は放射能の砂漠と化し、75年間は草木も育たないと考えられていました。しかし、わずか数ヵ月後、被爆した木々から新しい芽吹きが見られ、広島の人たちに生きる希望を与えました。

被爆樹木は、被爆時の傷や後遺症が目に見える形で残っており、当時の記憶を伝える証言者だといえます。GLHは、2011年設立以降、被爆樹木の種を無償で世界中の植物公園や大学、学校、その他象徴的な場所などに届け、平和のメッセージを伝える活動を行っています。これまで41カ国・150以上のパートナーに届け、各地で平和・希望のシンボルとして大切に育てられています。今年5月には、原爆投下と国連創設の80年にあわせて、ニューヨークの国連本部に被爆樹木の苗木が植えられ、広島の平和への願いが受け継がれました。

1000年先へ、樹を通じて “平和のメッセージ”を届けたい

「樹は、樹齢何百年にもなり、命のシンボルであり、遠い未来へ向けて平和のメッセンジャーになり得ます。14年間で41カ国に被爆樹木の種を届けてきましたが、私の夢は国連加盟国193すべての国に種を届けること。これからも私たちGLHは、世界中へ、そして1000年先へ平和のメッセージを伝えることを目指し、活動に取り組んでいきます。」 GLH共同創設者 ナスリーン・アジミさん



国連本部に植えた苗は、広島
の平和大通り沿いの被爆樹
木の柿の木の種を、GLHパ
ートナーのサンディエゴ植物
公園が苗木になるまで大切
に育て、輸送した。左が視察
に訪れたアジミさん、右が同
植物園のJoe DeWolf氏
(写真提供: GLH)

災害子ども教育支援

令和6年能登半島地震

当連盟は「災害子ども教育支援」を通じて、令和6年能登半島地震で被災した子どもたちや学校に対して支援を届けています。2025年4月には第2回の支援を実施しました。

奨学金支援では、対象となる子どもたちに対して2024年度から2026年度までの3年間にわたり、返還不要の奨学金を給付します。今号では、輪島市で部活動を頑張っている奨学生の声を紹介します。
(教育支援部)

支援実績 (2024年12月・2025年4月に実施)

- ①奨学金支援：56名を奨学生として認定
輪島市27名、珠洲市7名、能登町18名、穴水町4名
- ②学校等への支援：35校（石川県内）への支援を実施
珠洲市11校、能登町9校、輪島市12校、志賀町2校、内灘町1園
- ③ユース・ボランティアへの活動助成：4団体への支援を実施

奨学金支援 インタビュー

「これからも、輪島で大好きな仲間とバレーボールを続けたい」

石川県輪島市の中学1年生・橋本 倅佳^{さちか}さん



バレーボールの練習の後、インタビューに応じてくれた



輪島港にあるマリントウンの公園。
左側は海で、地震の影響で封鎖されている

輪島で被災し、半年間金沢に身を寄せた橋本倅佳さんの家族。その後、輪島の仮設住宅への入居が決まり、故郷に戻りました。輪島塗職人のお父さま曰く「毎年、家族6人全員で仕事の親方のところに年始の挨拶に行きます。地震が起きた年もそうだったので、全員無事だった。自宅にいたらどうなっていたかわかりません」。

金沢では、周りの方々にとってもよくしてもらい、生活の便利さも感じていました。しかし、「故郷に戻れたのはやっぱり嬉しかった」と倅佳さん。「一番好きな場所は輪島港にあるマリントウン。近くに子どもたちが集まる公園もあります。イベントも沢山あって、夏は輪島大祭。三夜踊りでは浴衣を着て踊ります」。

倅佳さんが最も力を入れているのは、中学入学後に仲間と一緒に立ち上げたバレーボール部。副キャプテンを務めています。強豪チームの準備運動の様子を観察したり、先生方にサーブやレシーブの指導をお願いしたり、チームとしても個人としてももっと強くなるために研究熱心です。「諦めない心」を教えてくれるバレーボールが楽しくて大好き。これからも仲間と続けていきたいと話してくれました。

お父さまの輪島塗の仕事は、昨年末まで完全休業していましたが、最近、事業再開に向けスタートしたところです。この奨学金に「感謝しかない」とお二人。部活のユニフォーム、ボール、アームウォーマーや遠征費、倅佳さんの制服や靴などの学用品にも活用されています。「とにかくこのまま元気に成長して行ってほしい」とお父さま。先のことはまだわからないけれど、倅佳さんはこれからも輪島で学び続けたいと思っています。

*2025年3月現在

U-Smileプログラム

春休みに沖縄体験旅行を実施 豊かな経験とともに、子どもたちは平和について学んだ



今年の春休み、当連盟が助成する6地域※と、包括連携協定を結ぶ山口県宇部市の子どもたち（小学4年生から高校3年生）が、沖縄体験旅行に参加しました。学校が長期休みの期間は、家庭の環境によって子どもたちの体験格差が生まれやすく、予定のない子どもは少なくありません。そうした子どもたちに、思い出をつくり、さまざまな出会いを通じて視野を広げてほしいという思いから、沖縄県ユネスコ協会会員である沖縄観光株式会社との協力ののもと、この旅行を企画しました。

ツアーのテーマは「平和教育」。1日目はひめゆり平和祈念資料館、沖縄県平和記念資料館、平和の礎を訪れました。戦争の悲惨さを知った子どもたちからは、「戦争の悲しさを忘れず、人を思いやる心を大切にすることが平和につながると思う」といった感想が寄せられ、それぞれが平和について深く考える時間となりました。

2日目は美ら海水族館と首里城を見学。2019年の火災で正殿を含む9つの建物が焼失した首里城は、現在修復作業中です。ガイドの方から「修復中の様子は今しか見られない貴重な光景」と説明を受け、子どもたちは真剣に見入っていました。

3日目は、ANA MRO JAPANの機体整備工場を訪問。普段は見られない航空機の整備現場に、子どもたちは目を輝かせていました。

帰路の空港では、他地域の参加者との別れを惜しむ姿も見られ、交流の輪が広がりました。U-Smileプログラムでは、「人や社会と関わる力や自立して生き抜く力」の育成

を目指し、今後も困難な状況に置かれた子どもたちに、成長と学びの機会を届けます。
(教育支援部)



復元中の首里城訪問は、文化の継承について考えるきっかけとなった



飛行機の整備工場の見学を通じて、仕事や働くことについて学んだ

※当連盟では、ユネスコ協会・クラブ等の団体が行うU-Smileプログラムの目的に沿った子ども支援の取り組み・活動に対し、活動費用の助成を行っている。今回の体験旅行には、①維新隊ユネスコクラブ（群馬県前橋市）②高知ユネスコ協会（高知県高知市）③箕面ユネスコ協会（大阪府箕面市）④蓮田・白岡地方ユネスコ協会（埼玉県蓮田市）⑤高松ユネスコ協会（香川県高松市）⑥津山ユネスコ協会（岡山県真庭市）から子どもたちが参加した。

pick up!

子ども支援に取り組むユネスコ協会が沖縄で一同に集まる！ 「つながるミーティング」を実施しました



沖縄体験旅行のサイドプログラムとして、各団体の指導者が集まり、「つながるミーティング」を実施しました。各団体の活動紹介から始まり、課題の共有やそれに対するアドバイスを行いました。参加者全員が「子どもたちのためにできること」を、それぞれの立場や環境の中で真摯に取り組んでいることが互いに伝わる議論となりました。

司会進行を務めた箕面ユネスコ協会の坂口会長は、「それぞれが得意なことを続けながら、新しい風を取り入れていくことが大切。『教えて』といえど教えてもらえる、そんな関係を大切にしていきたい。真似できな

い部分があっても、新しい風を排除せず、互いに交流を深めていきたい」と締めくくりました。



子ども支援を行うユネスコ協会の代表者が、これからの子ども支援について意見を交わした

三菱アジア子ども絵日記フェスタ 2024-2025

23の国と地域のグランプリ受賞者が 大阪・関西万博会場での国際表彰式に出席

「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」は、日本固有の文化である絵日記をアジアの子どもたちに描いてもらうことで、お互いの生活様式や文化への理解をより深めてもらうことを目的に、2年に1度実施している国際文化交流事業です。

第16期（2024～2025年）は23の国と地域から3万3793点の応募があり、2025年4月の国際審査で各国の受賞作品が選出されました。グランプリ受賞者は日本に招待され、7月31日(木)に大阪・関西万博会場での国際表彰式でメダルなどを授与されたほか、歓迎レセプションに参加しました。翌日、グランプリ受賞者たちは「私たちの未来」をテーマに共同で作品を制作し、さらに、大阪市立城東小学校の生徒たちが企画した相撲体験などの交流プログラムにも参加しました。

(海外事業部)

共催：三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟



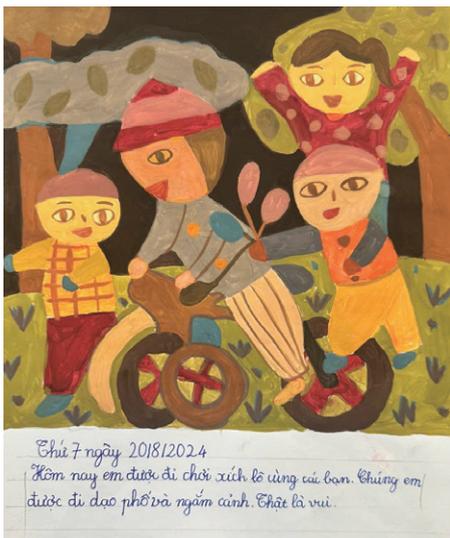
万博会場（シャインハット）での国際表彰式



各国の受賞者たちが共同で作品を制作。絵を通じて相互理解を深めた



受賞者たちは初めての相撲を楽しんだ



受賞作品
一覧はこちら

ベトナム
グランプリ作品
フイ トウ イ ラム さん
(7歳)

2024年8月20日 土曜日

今日は友だちとシクロ(前が二輪の三輪自転車)に乗りました。
私たちは町を歩きまわって観光しました。
とても楽しかったです。

DNPの一面!

DNP FUTURE PRESS

地球への想い、
フィルムに
重ねて。

半導体は
浪漫だ

XR? 人生を
拡張する

薬! DNPと

DNPの
知られざる一面
その全貌はこちら



未来のあたりまえをつくる。

DNP

DNPの一面

大日本印刷

世界遺産活動

世界遺産ボロブドゥル地域に根差したSDGsの実現

インドネシアの「ボロブドゥル寺院遺跡群」は、8-9世紀に建てられたといわれる世界最大級の仏教寺院です。2つの寺院で構成され、寺院を中心として、周辺一帯の景観も含めて仏教の宇宙観が体现されています。

2023年度よりUNESCOジャカルタ事務所と協力し、遺跡周辺の文化的景観の一部である伝統的家屋の保全に関するガイドラインの作成と、地元の大学生向けの研修として、周辺住民の課題解決を考える2つのプログラムを実施しています。

大学生向けの研修は、遺跡群周辺に暮らす住民の積極的な参画を促す、遺跡群を題材とした地域振興プログラムで、ボロブドゥル遺跡群の持続可能な保全を目指して大学生が企画し実施するものです。地元大学生を含む25のユースチーム約100人が参加し、地域振興プログラムの企画案が提出されました。選考に残った15チームがプレゼンテーションを行うコンペティションを経て、最終的に3チームが優勝し、3つの企画案が採択されました。そのうちの1つは、ボロブドゥル遺跡のレリーフに描かれている伝統的

な陶器づくりを表現したダンスを開発するという企画で、村のお祭りで子どもたちが披露しました。

なお、伝統的家屋の保全に関するガイドラインは、2025年度中に完成する予定です。

(文化事業部)



子どもたちがダンスを披露。ボロブドゥル寺院周辺の村の人たちにとって、寺院の歴史や伝承との結びつきを学ぶ機会となった

Innovating Energy Technology

エネルギー技術を、究める。

電気、熱エネルギー技術の革新の追求により、
エネルギーを最も効率的に利用できる製品を創り出し、
安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献します。

FE 富士電機

富士電機株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2(ゲートシティ大崎イーストタワー) TEL.03-5435-7111

新役員および評議員

6月14日(土)に開催された第77回定時総会で役員改選が行われました。
定時総会・第570回理事会で選任された役員・評議員は以下の通りです。
(敬称略、2025年6月14日現在)

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

2025-2026年度 役員(理事・監事)

五十音順、※は代表理事

会長 ※佐藤 美樹 朝日生命保険相互会社 特別顧問	理事 鈴木 昌徳 津山ユネスコ協会 会長
副会長 永野 博 東京都ユネスコ連絡協議会 会長	理事 高橋 仁 公益社団法人 仙台ユネスコ協会 代表理事・会長
理事長 ※鈴木 佑司 法政大学名誉教授	理事 土居 英雄 松山ユネスコ協会 会長
理事 伊東 正博 特定非営利活動法人鎌倉ユネスコ協会 理事	理事 長坂 亮介 飯田ユネスコ協会 理事、 つながるユネスコクラブ 事務局次長
理事 井上 波 株式会社TBSホールディングス 執行役員 兼 株式会社TBSテレビ取締役	理事 永田 佳之 聖心女子大学現代教養学部教育学科 教授
理事 大津 和子 北海道ユネスコ連絡協議会 前会長	理事 名須川 知子 OMEP日本委員会 会長
理事 大矢 和子 公益財団法人資生堂社会福祉事業財団 (現資生堂子ども財団) 前理事長	理事 林 朋子 北海道ユネスコ連絡協議会 副会長
理事 小山田 隆 株式会社三菱UFJ銀行 特別顧問	理事 平井 花画 岐阜県ユネスコ協会 会長
理事 金丸 徳雄 株式会社講談社 最高顧問	理事 望月 浩明 東海大学甲府高等学校 非常勤講師、 かながわユネスコスクールネットワーク (KAN) アドバイザー
理事 川嶋 彩音 名古屋ユネスコ協会青年部 代表	理事 安田 昌則 大牟田市教育委員会 前教育長
理事 岸 正博 群馬県ユネスコ連絡協議会 会長	理事 山田 滝雄 アジア・ゼロエミッション共同体 (AZEC) 担当大使、 元UNESCO代表部大使
理事 小林 敬一 古河電気工業株式会社 取締役会長	理事 山中 健 芦屋ユネスコ協会 会長
理事 坂井 辰史 株式会社みずほフィナンシャルグループ 特別顧問	監事 齋藤 晴正 株式会社増田屋コーポレーション 代表取締役社長
理事 白石 勝洋 久留米ユネスコ協会 会長	監事 増田 正志 増田公認会計士事務所 公認会計士

2025-2026年度 評議員

【構成団体会員代表】62		中国		【個人会員代表】10				
ブロック	協会名			会員名	所属・役職			
北海道	北海道ユネスコ連絡協議会	中国	鳥取ユネスコ協会	及川 幸彦	奈良教育大学 学長補佐 (特命担当) / 奈良教育大学ESD・SDGsセンター セン ター長、放送大学 客員教授			
	旭川ユネスコ協会		石見地区ユネスコ協会					
	札幌ユネスコ協会		岡山県ユネスコ連絡協議会					
	東北		一般社団法人 青森県ユネスコ協会			広島県ユネスコ連絡協議会	大津 和子	北海道ユネスコ連絡協議会 前会長
			岩手県ユネスコ連絡協議会			下関ユネスコ協会		
			花巻ユネスコ協会			徳山ユネスコ協会		
盛岡ユネスコ協会		四国	徳島ユネスコ協会			小山田 隆		
一般社団法人 青森県ユネスコ協会	香川県ユネスコ連絡協議会	愛媛県ユネスコ連絡協議会	木曾 功			元UNESCO政府代表部特命全権大使		
岩手県ユネスコ連絡協議会	高知ユネスコ協会	高知ユネスコ協会	小林 亮			玉川大学教育学部 教授		
花巻ユネスコ協会	久留米ユネスコ協会	佐賀ユネスコ協会	坂口 一美			箕面ユネスコ協会 会長		
盛岡ユネスコ協会	佐賀ユネスコ協会	熊本ユネスコ協会	鈴木 佑司	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 理事長				
一般社団法人 青森県ユネスコ協会	熊本ユネスコ協会	大分ユネスコ協会	望月 浩明	東海大学甲府高等学校 非常勤講師、 かながわユネスコスクールネットワーク (KAN) アドバイザー				
白石ユネスコ協会	大分ユネスコ協会	都城ユネスコ協会	坂口 一美	箕面ユネスコ協会 会長				
秋田ユネスコ協会	都城ユネスコ協会	鹿児島ユネスコ協会	吉崎 晴子	特定非営利活動法人 市川市ユネスコ協会 特別顧問				
酒田ユネスコ協会	鹿児島ユネスコ協会	沖縄県ユネスコ協会	吉田 敦彦	大阪公立大学 名誉教授 / 大阪公立大学大学院現代システム科学研究 科 客員教授				
福島県ユネスコ連絡協議会	沖縄県ユネスコ協会							
郡山次世代ユネスコ協会								
一般社団法人 新潟市ユネスコ協会								
関東	土浦ユネスコ協会	【全国の青年連絡組織代表】9		【日本ユネスコ国内委員会委員】9				
	栃木県ユネスコ連絡協議会	ブロック	氏名	協会名	ブロック	氏名	協会名 役職	
	群馬県ユネスコ連絡協議会	北海道	木下 さおり	岐阜県ユネスコ協会	北海道	押谷 一	江別ユネスコ協会 会長	
	高崎ユネスコ協会	東北	井上 海	仙台ユネスコ協会	東北	藤本 恵子	秋田ユネスコ協会 副会長	
	藤岡地方ユネスコ協会	関東	吉田 理沙子	渋谷ユネスコ協会	関東・ 甲信越	成田 和憲	渋谷ユネスコ協会 副会長	
	蓮田・白岡地方ユネスコ協会	中部東	長坂 亮介	飯田ユネスコ協会、 つながるユネスコクラブ	関東・ 甲信越	西野 裕代	杉並ユネスコ協会 副会長	
	千葉ユネスコ協会	中部西	川嶋 彩音	名古屋ユネスコ協会	関東・ 甲信越	大矢 彰子	名古屋ユネスコ協会 理事	
	富里ユネスコ協会	近畿	木下 結等	奈良ユネスコ協会	近畿	若林 美和子	大阪ユネスコ協会 理事・ 事務局長、 大阪府ユネスコ連絡協議会 理事・事務局長	
	船橋ユネスコ協会	中国	夏井 千恵	岩国ユネスコ協会	中国	井上 法雄	鳥取ユネスコ協会 会長	
	東京都ユネスコ連絡協議会	四国	木下 さおり	岐阜県ユネスコ協会	四国	井上 公子	四国中央ユネスコ協会 理事	
	朝日生命ユネスコクラブ	九州	久保田 健太郎	久留米ユネスコ協会	九州	添石 幸伸	沖縄県ユネスコ協会 会長	
	港ユネスコ協会							
	杉並ユネスコ協会							
	特定非営利活動法人 鎌倉ユネスコ協会							
山梨県ユネスコ連絡協議会								
長野県ユネスコ連絡協議会								
特定非営利活動法人 静岡ユネスコ協会								
中部東	富山県ユネスコ連絡協議会	【維持会員代表】10						
	石川県ユネスコ協会	会員名	朝日生命保険相互会社					
	ふくいユネスコ協会	ANAホールディングス株式会社	株式会社紀伊屋書店					
	岐阜県ユネスコ協会	株式会社紀伊屋書店	中央日本土地建物株式会社					
	豊橋ユネスコ協会	株式会社TBSホールディングス	株式会社電通					
三重県ユネスコ連絡協議会	NTT株式会社	富士急行株式会社						
中部西	彦根ユネスコ協会	古河電気工業株式会社	株式会社みずほフィナンシャルグループ					
	舞鶴ユネスコ協会	株式会社みずほフィナンシャルグループ						
	大阪府ユネスコ連絡協議会							
	特定非営利活動法人 神戸ユネスコ協会							
	西宮ユネスコ協会							
近畿	川西ユネスコ協会	【賛助団体会員代表】2						
	奈良ユネスコ協会	登録会員名	*[和名]					
	和歌山県ユネスコ連絡協議会	OMEP (オメップ) 日本委員会	*[世界幼児教育・ 保育機構日本委員会]					
		公益社団法人日本図書館協会						



■第77回定時総会

6月14日(土)、ハイブリッド
(会場・オンライン)により開催した。

I. 決議事項

- 第1号議案 2024年計算書類等(案)
- 第2号議案 会員に関する規程の改定
- 第3号議案 評議員の選任
- 第4号議案 理事・監事の選任

⇒審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

II. 報告事項

- ・2024年度事業報告書
- ・2025年度事業計画書及び収支予算書
- ・ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について
- ・第81回日本ユネスコ運動全国大会 in 金沢

■第569回理事会

5月17日(土)、ハイブリッドにより開催した。

I. 決議事項

- 1. 会員の入会
- 2. 2024年度事業報告書(案)及び2024年度計算書類等(案)
- 3. 次期(25-26年度)評議員候補案の総会提案について
- 4. 次期(25-26年度)役員候補案の総会提案について
- 5. 第77回定時総会の開催(案)
- 6. 会員に関する規程の改訂
(構成団体会員所属学生会員の会費無償化)

⇒審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

II. 協議事項

- 1. 部会等からの報告・提案事項等
 - (1) 組織部会
 - (2) 財務部会
 - (3) U-Smile 部会
- 2. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について

⇒協議の結果、いずれも承認された。

III. 報告事項

- 1. 担当理事からの報告
(学校関連・災害復興支援)
(戦略広報)
(世界寺子屋運動)
- 2. 青年理事報告
- 3. 2024-25年度 事業進捗報告
- 4. 代表理事の職務執行状況報告
(2025年3月15日～5月16日)
- 5. 事務局組織の設置・改廃
- 6. 後援・共催事業
- 7. 日本ユネスコ国内委員会関係報告
- 8. 2025-26年度 理事会・評議員会・総会開催日程及び運営方法について

■第570回理事会

6月14日(土)、ハイブリッドにより開催した。

I. 決議事項

- 1. 代表理事・会長の選定
- 2. 副会長、代表理事・理事長の選定
- 3. 名誉会長、顧問の選任

⇒審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

■第571回理事会

7月12日(土)、ハイブリッドにより開催した。

I. 決議事項

- 1. 会員の入会
- 2. 2025年度以降の理事会運営に関する基本方針(案)

⇒審議の結果、原案どおり決議された。

II. 報告事項

- 1. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について
- 2. 部会等報告
 - 1) U-Smile 部会報告
 - 2) 青年理事報告
 - 3) ユース施策報告
- 3. 第61回評議員会議題
(2025年8月2日(土))
- 4. 2025年度 事業進捗報告

- 5. 代表理事の職務執行状況報告
(2025年5月17日～7月11日)
- 6. 後援・共催事業

■第572回理事会

9月13日(土)、オンラインにより開催した。

I. 決議事項

- 1. 会員の入会
- 2. ガザ支援活動におけるUNESCOとの連携について

⇒審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

II. 協議事項

- 1. 部会等からの報告・提案事項等
 - (1) 財務部会
 - (2) U-Smile 部会
- 2. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について

⇒協議の結果、いずれも承認された。

III. 報告事項

- 1. ブロック代表理事会議からの報告
- 2. 担当理事からの報告(戦略広報) 小林理事
- 3. 青年理事報告
- 4. 2025年度 事業進捗報告
- 5. 代表理事の職務執行状況報告
(2025年7月13日～2025年9月12日)
- 6. 後援・共催事業
- 7. 日本ユネスコ国内委員会関係報告

■第61回評議員会

8月2日(土)、ハイブリッドにより開催した。

- 1. 理事・評議員の紹介
評議員会の構成・評議員の役割等
理事と評議員との連携について
- 2. 2025年度以降の理事会運営に関する基本方針
- 3. 2025年度事業計画と進捗について
- 4. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について
- 5. 2025年度の評議員会日程について

◆新規加入会員のご紹介◆

【維持会員】

日亜化学工業株式会社 代表取締役社長 小川 裕義

「Ever Researching for a Brighter World—より明るい世界のために限りなき研究を」という企業理念のもと、光とエネルギーの分野で革新的かつ独創的なものづくりを通して、世の中に必要な世界一の商品を創出し、社会に貢献できる企業であり続けたいと思います。

株式会社トッププランニング JAPAN 代表取締役 村山 哲生

弊社は、国内では建築業またそれに係る技術開発事業を行っておりますが、カンボジアにてカシューナッツ加工工場を設立し、民間実業を通じた地域開発を目指しております。そのご縁から、協会連盟に参加させていただきました。活動を通じて、現地の地域開発や持続可能な社会の実現を目指していきます。

ユネスコ活動の広場

若者主導で平和のためのアクションに挑戦！ ピースビルディング・ユース・プログラム始動

今年度、大学生を中心としたユースが主体となり、平和のためのアクションを考える「ピースビルディング・ユース・プログラム (PYP)」を開始しました。本プログラムは、戦後80年という節目に「学びと気づき」「対話から行動へ」という2つのステップを通じ、平和の価値を再認識し、未来を切り拓くことを目的としています。

6月には全国から集まった8名の大学生・大学院生による実行委員会が発足し、会議を重ねながらユース向けのイベントの内容を検討しています。第1回イベントは12月7日(土)にオンラインで、第2回は都内で2026年2月28日(金)～3月1日(土)に対面で行う予定で、講話やグループディスカッションを通じて未来への行動を形にしていきます。参加者の募集は当連盟ウェブサイトなどのご案内します。

※イベントは定員30名で、参加対象は18歳以上35歳以下のユース(高校生不可)、第1回・第2回ともに参加できる方。

(組織部)



8月23日の第3回会議は対面開催し、イベントの具体的な内容を検討した

【実行委員】

笹島真樹(城西大学) 委員長/井上海(仙台ユネスコ協会青年部、東北大学)/江原朋花(青山学院大学)/川上寛人(岡山理科大学大学院)/国松和明(創価大学ユネスコクラブ)/小宮澄夏(東京学芸大学)/齊藤楓(青山学院大学)/谷川原環(法政大学)

実行委員長 笹島真樹さんからメッセージ

この度PYPが始動することに、心から喜びを感じています。戦後80年という節目に、私たちユースが平和を考え、行動するこのプログラムは、未来を築く重要な一歩となるでしょう。

「学びと気づき」「対話と行動」という2つのステップを真摯に探求し、プログラムをともに創り上げていけることを楽しみにしています。皆さんと一緒に、平和の価値を再認識し、未来を切り拓く道を築いていければ幸いです。



information

日本ユネスコ協会連盟からのお知らせ

お知らせ

年間領収書の発行と送付のお知らせ

当連盟への募金・寄付金は、確定申告していただくことにより、税法上の優遇措置を受けることができます。2025年1月1日～12月31日に受領したご寄付の年間領収書は、2026年2月上旬までにお届けする予定です。紛失などによる領収書の再発行はできませんので、申告時まで大切に保管をお願いいたします。なお、以下の点にもご留意ください。

■クレジットカードでのご寄付は、決済日ではなく、カード会社・決済代行会社から当連盟に入金された日が受領日となります。11月以降にクレジットカードで寄付された場合、当連盟への入金が翌年1月以降になる場合があります。

■今回発行分より領収書の名義や送付先住所を変更される方は、2025年11月28日(金)までに書面またはメール、もしくはお電話でお知らせください。

■問合せ：総務部(澁澤)

E-mail: soumu@unesco.or.jp

TEL: 03-5424-1121

「2024年度 活動レポート」発行



昨年度の活動内容や成果をまとめた報告書「2024年度 活動レポート」を発行しました。2次元バーコードからダウンロードできます。ぜひご覧ください。



公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO憲章の精神に共鳴した人びとによって1947年、世界にさきがけ仙台で始まった、民間ユネスコ運動の日本における連合体です。現在全国に約270のユネスコ協会・クラブがあります。会長：佐藤美樹 副会長：永野博 理事長：鈴木佑司